

報告  
CLUB-FOREST

# 日本が変われば世界が変わる

「スウェーデンの地球温暖化対策を聞く会」

11月22日(金)の夜に「CLUB-FORST」の集まりにおいて、みやぎ環境教育ネットワーク(MEEN)の企画で来仙されていたスウェーデンの環境コンサルタント、ペオ・エグベリ氏(環境コンサルタント One World Network)からスウェーデンの環境保全に対する考え方や、地球温暖化対策について話を聞きました。

ペオ氏は旅行ジャーナリストとして世界各国を見て回った後、環境コンサルタントとして、日本で活動されている方です。「世界各国を旅行して感じたのは、製品や文化の面で日本の世界各国への影響力。日本が変われば世界が変わるのではないか。」という思いがあり、日本で活動しているということ

でした。

話の中で、スウェーデンの電機メーカーが洗濯機を売るのではなくリースをして使用料を得るという事業を行なっている例をあげて「リースの場合、メーカーは、より長持ちするものをつくるようになるのだ。」とおっしゃられていたのが印象的でした。

ペオさんの活動に関しては、One World Networkのホームページをご覧ください。  
<http://www4.familie.ne.jp/~oneworld/>



## 声に出して読むだけでは

## ものたりない日本語

そう、バスはズンズン走る自転車がほしかったのです。キーコキーコ音を立てて、ちっとも前へ進まない三輪車のおかげでパン屋さんの閉店に間に合わなかったから。ズンズン走る赤い自転車を手に入れたバスですが、乗り方がわかりません。いろんな人が「ペダルをこぎつづければいい」というのですが……

「じてんしゃにのりたい！」(訳 野坂悦子, くもん出版)の作者グレギー・ドゥ・マイヤーはベルギーの作家です。ベルギーやオランダでは自転車専用のレーンや信号、田舎道では自転車旅行者のための休憩所などの施設があります。自転車の生活をとっても大事にしています。もし、旅行するなら、宮殿や美術館もいいのですが、一日かけて自転車で田舎道を走るのもいいものです。ベルギーやオランダの生活がたくさんの発見できるはずですし、絵画などの空気にもふれることができます。

仙台でも自転車を使うための試みや調査が何度か行われたはずですが、どうして「自転車には『生きにくい』まち」は変わらないのでしょうか。

「自転車で買い物」がオシャレにならないのでしょうか? 「あなたはまだ自動車で買い物をしているのですか」というプラカードが出てこないのでしょうか。

さて、この作品は文が短く、リズムのある翻訳になっています。自転車で町の中をすいすい走るように、動きのある描写をハンドルでかわして読んでみましょう。自転車に乗ると、見逃していた新しいところも見つかりますから、読み方もどんどん横道にそれてください。聞いている方はそれも楽しいものですよ。

